

報道発表資料

ホーム > 報道発表資料 > 詳細

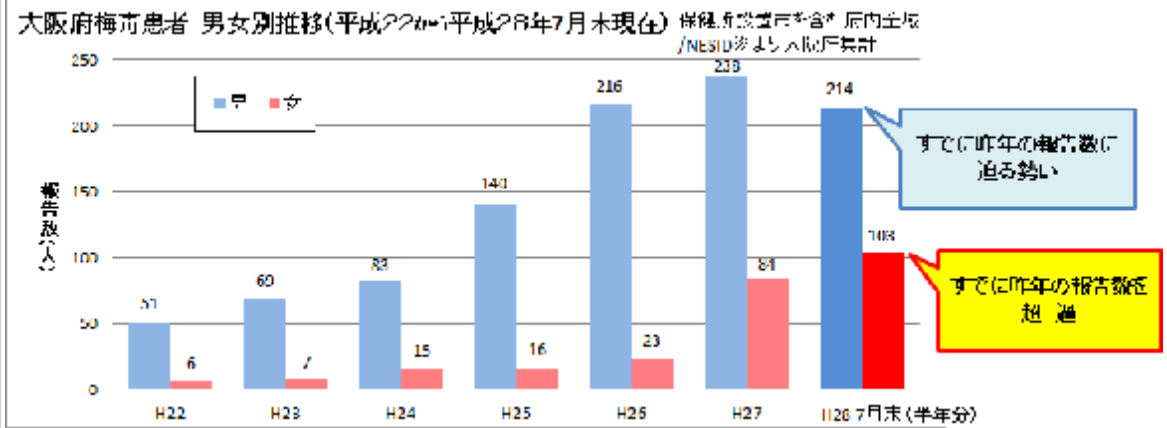
梅毒患者、昨年の倍に迫る勢い！ 正しい知識を身につけ、行動しましょう

特に20代の女性患者が急増してます

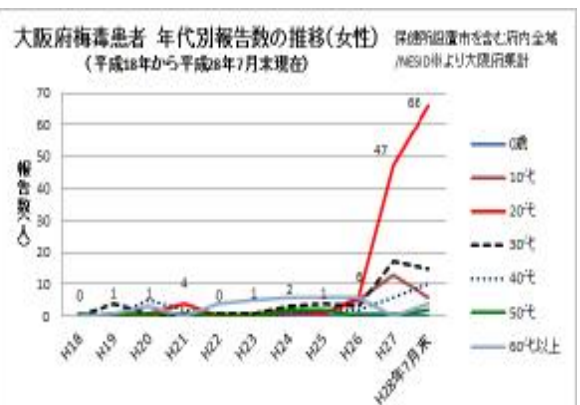
代表連絡先
健康医療部 保健医療室医療対策課 感染症グループ
ダイヤルイン番号：06-6944-9156
メールアドレス：iryotaisakug03@gbox.pref.osaka.lg.jp

提供日 2016年8月15日
提供時間 14時0分

平成28年1月から7月の大阪府の梅毒報告数(速報値)は、317人(男性214人、女性103人)となりました。この時期で、昨年の報告数322人(男性238人、女性84人)に迫っており、性別年代別の報告数では、特に20代の女性患者の急増が顕著です。妊娠中の女性が感染すると、胎児に先天梅毒を引き起こすこともありますので、特に注意が必要です。
平成26年までは男性患者が約9割を占め、男性間の性行為による感染が中心と考えられていましたが、この状況をふまえると、異性間の性行為による感染が、今後、増加すると予測されます。
予防や早期発見について、正しい知識を持ち、行動しましょう。



内容



※NESID(感染症サーベイランスシステム)とは：感染症を診断した医療機関からの発生報告を一元的に効率よく情報解析するために、地方自治体と国の行政機関を結ぶ情報システム

<参考>
○梅毒とは
性的な接触などによってうつる感染症です。感染すると、経過した期間により、感染が起きた部位にしこりができる、リンパ腺が腫れる、手のひら・足の裏・体全体に赤い発疹が出る場合があります。早期に抗生剤を服用すれば治りますが、感染していることに気付かず、放置していると、髄膜炎、進行性まひ、認知症など重大な障害を起こすことがあります。また、梅毒に感染していると、HIV感染症などの他の性感染症にも感染しやすくなります。

	<p>○予防するには コンドームを使用することで予防の効果はありますが、コンドームが覆わない部分の皮膚や粘膜に梅毒の症状があると感染する可能性があります。症状がある場合は、性的な接触を控え、早期に医療機関を受診してください。また、一旦完治しても再感染することがあります。梅毒に感染しているとわかった場合は、パートナー等と一緒に検査を行い、必要に応じて一緒に治療を行うことが重要です。</p> <p>○検査について 大阪府では保健所等で、HIV検査と同時に無料・匿名で、血液検査(抗体検査)を行います。感染直後に抗体検査を行っても陽性反応がでないことがありますので、感染の機会があつてから4週間から6週間後の検査が必要です。感染を疑う症状がある場合は、その期間を待たずに医療機関を受診してください。 詳細は大阪府ホームページ「大阪エイズ・HIV情報」をご参照ください。</p>
関連ホームページ	梅毒について
	厚生労働省 梅毒に関するQ&A
	国立感染症研究所
資料提供ID	24790

[報道発表資料のトップへ](#)[ページの先頭へ](#)